

## 「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：

<b>企画名</b>
二畳の茶室 2017
<b>実施日</b>
平成 29 年 11 月 4 日（土）～ 平成 29 年 11 月 5 日（日）
<b>実施場所</b>
マーメイドカフェ周辺
<b>企画代表者の氏名，所属</b>
氏名：榊原 康太 所属：工学研究科建築学専攻建築設計学研究室
<b>構成員の氏名</b>
谷口 元裕、小野 公治、木戸口 美幸、桑原 あゆみ、松本 聖也、橋本 圭四郎、 前田 拓哉、川原 梓
<b>指導的立場の教員氏名</b>
岡河 貢 准教授
<b>企画の目的及び内容</b>
建築の最小空間である二畳の茶室を多くの人に体験してもらうことで建築の魅力や可能性を伝えることを目的とします。また、普段各自が学んでいる建築の設計、意匠、環境や構造についての実験の場とし、大学祭の期間中に設置しました。そのため、二畳の茶室を建築学生で設計・施工し、当日に茶道部と茶道研究会の方にお茶会を開いてもらいました。
<b>来場者数</b>
332 人（見学のみ 225 人）
<b>主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）</b>
広島大学工学研究科建築学専攻建築設計学研究室 広島大学工学研究科建築学専攻 広島大学裏千家茶道部 広島大学茶道研究会
<b>活動の内容（準備，広報活動，当日の様子等）</b>
<p>まず、企画の参加した建築学生でコンセプトや方向性を話し合いにより決めることから始めました。この時に、昨年までの茶室では、解体後に処理しにくい廃棄物がよく出たため処理されずに放置されていたため、解体・処理しやすいもので茶室を建てることを決めました。コンセプト決定後、1/20 の模型により多くのパターンをつくることで、形態や周りとの関係を検討していきました。その後、実際に建てるために模型でのシュミレーションを行い、施工を開始しました。この際、作業時間に制限があったため、早朝を主な作業時間としました。明るい時間帯での作業だったため、けがもなく、効率的に作業をすることができました。</p> <p>また、運営については、茶道部・茶道研究会の方たちとの打ち合わせを行い、当日の計画を決めていきました。特に、電力の確保や一組当たりのお茶会の時間について話し合うことで、当日により多くの人に茶室を体験できるように検討していきました。</p> <p>広報活動については、ポスターを制作し、当日に学内の 4 カ所（工学部 A2 棟、サタケ前、北食前、企画場所）に掲示しました。</p> <p>当日は例年よりも広範囲に宣伝をしたため、2 日間で 300 人近くの人に来ていただきました。また、来場者の方には家の庭に建ててほしいなどと好評をいただきました。運営もスムーズに行うことができ、大学祭の 2 日間を無事に終えることができました。</p>

（裏面に続く）

# 「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書 (裏面)

## アンケートの結果 (来場者にアンケートを実施した場合のみ)

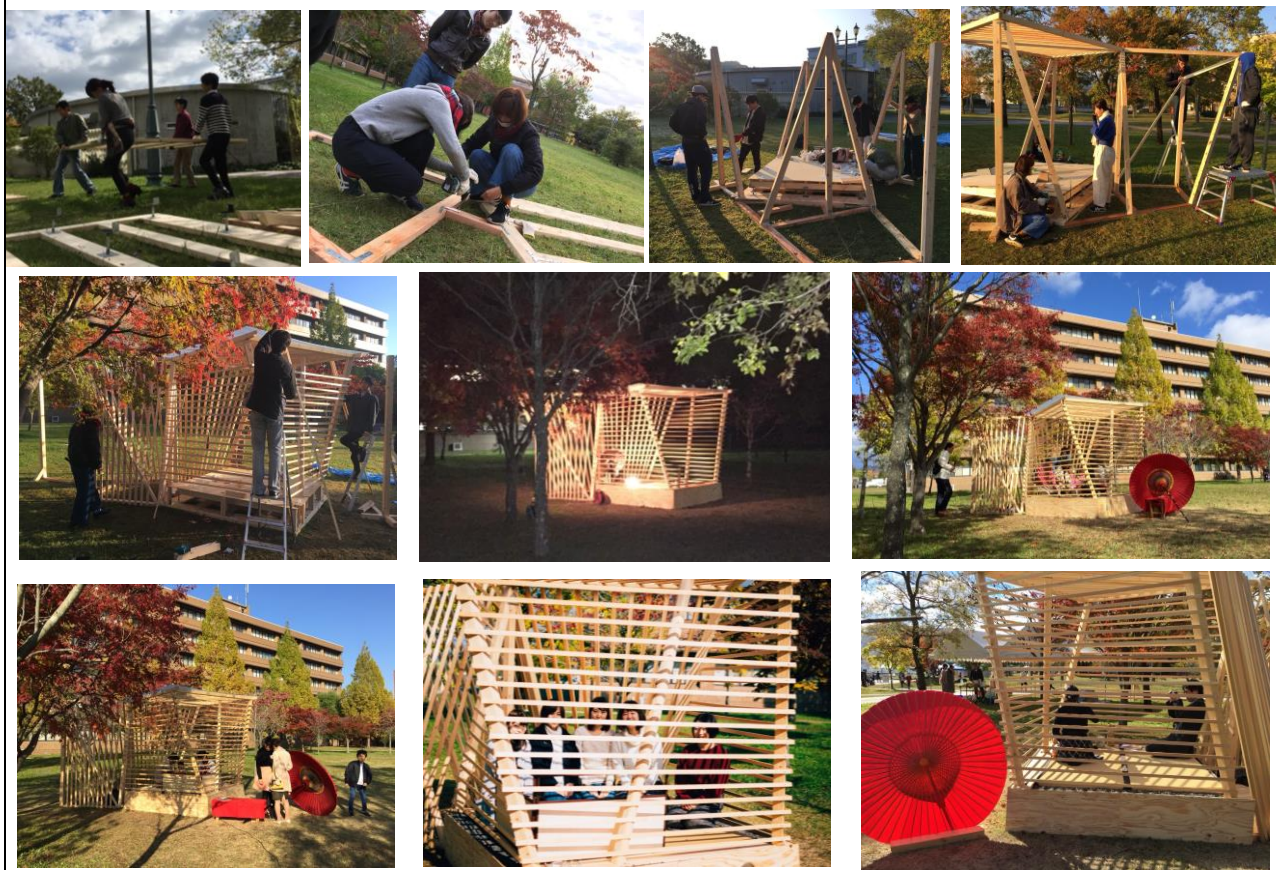
### 成果・課題

今年の茶室は、二畳の茶室空間だけでなく、「露地」、「にじり口」、「床柱・床の間」といった茶室の基本的構成をほとんど変えずにつくりました。従来の茶室では、「にじり口」を小さくすることで狭い二畳の空間を広く感じさせる工夫がなされています。そこで私たちは形態を操作することで二畳を広く感じさせるとともに、空間を現代的なものにすることにしました。

ここで、直線材のみで、ねじれた空間をつくる試みができたことがこの企画での大きな成果だと思います。

反省点としては、茶室の側面部のルーバーの幅が予想していたよりも細いものになってしまったため、そこをもう少し検討する必要があったこと、建物の接合部分や仕上げを検討し、丁寧に仕上げる工夫をすることがあげられます。また、運営については当日予約制での運営では、せっかく来てくださった方に茶室を体験してもらえないことが多々あったので、運営方法についてもっと茶道部・茶道研究会の方と話し合い検討する必要があると感じました。

### 実施風景 (写真)



【提出方法】指定された期限までに本紙を作成の上、電子ファイルで提出してください。

E-mailでも受け付けます。

【提出先】工学部学生支援室 (kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp)